



花植えに汗を流す村づくり協力委員ら

望郷ライン沿いで「花いっぱい運動」

昭和村村づくり協力委員会（小野英樹会長）は7月11日、村議会議員と合同で望郷ライン沿いにサルビアとマリーゴールドの苗、およそ4千本を植えました。



婦人会も花植えを実施

また、村婦人会（沢浦典子会長）は7月24日、同会員25名が参加し総合運動公園付近の道路沿いにサルビアの苗およそ3千本を植えました。

これらの作業は、村の景観や環境の美化を図る「花いっぱい運動」の一環としてそれぞれの団体が毎年行っているもの。両日とも、強い日差しが照りつける厳しい暑さの中、水分補給など体調管理に気を配りながら、およそ2時間にわたって植付けや水やり作業に汗を流しました。

地域ケア推進会議を開催

第1回地域ケア推進会議が7月11日に開催されました。この会議は、高齢者の状況や変化に応じて、包括的で継続的な支援を行う体制づくりなどを目的とし、村地域包括支援センターの呼びかけで開催したもの。当日は、村内のケアマネージャーや各介護保険事業所の代表者など14名が出席しました。

会議では、認知症高齢者等事前登録制度について沼田警察署の奈良慶美巡査長から情報提供があったほか、認知症の人

のために、あつたらしいなを考える」をテーマに、出席者による意見交換も行われ、実態に即した建設的な議論が交わされました。出席者からは「意見交換は有意義で楽しかった」「他の事業所の方と交流できてよかった」「たくさん出されたおもしろい意見が、今後一つでも実現して欲しい」などの感想が聞かれました。

なお、この会議は今後も開催し、認知症になっても安心して暮らせる村を目指して議論を深めることとしています。



認知症の人に対する意見を交換する出席者

青少年健全育成大会を開催

を

村教育委員会と村青少年問題協議会が主催する、青少年健全育成大会が7月17日、村公民館で開催されました。この大会は、次代を担う青少年の健全育成を図るために毎年開催されており、当日は関係者などおよそ80名が出席。利根教育事務所の齋藤恵美氏を講師に招き、「夏休み直前！子どもとのコミュニケーションを見直そう」と題した講演が行われました。

このほか、南小学校の内堀洋文校長から「学校現場の今」が紹介されました。



講演を行う齋藤恵美氏



多くの人でにぎわった餅投げ

道の駅で7周年記念イベントなど開催

道の駅「あぐりーむ昭和」のオープン7周年を祝うイベントが7月29日、同道の駅で開催されました。

イベント開催に際し、堤村長は「皆さ



好評のとうもろこし収穫体験

んの励ましをいただき、7周年を迎えることができました。今日のイベントを存分に楽しんでください」とあいさつ。

イベントステージでは、フォークダンスやバルーンアートのほか、恒例の餅投げなど様々なアトラクションが行われ、村内外から訪れた多くの人たちにぎわいました。

また、とうもろこしまつりも併せて行われ、とうもろこしの収穫体験や、焼きとうもろこしの販売なども盛況に行われました。

ホタル観察会で交流を深める

東小学校PTAが主催するホタル観察会が7月7日、NPO法人清流の会（今楸憲雄理事長）の協力を得て川龍寺で開催され、東小学校の児童と東京都板橋区立志村第五小学校の児童が交流しました。

観察会には、かねてから交流のある志村第五小の児童24人と保護者、東小の児童58人と保護者らが参加。村ふるさと大使の荒井宏二さん（東京都板橋区）が、戦

時中に川龍寺に疎開していた先輩たちの話を聞き「当時お世話になったお礼に」と毎年ご厚意で送ってくださる具材を使

い、PTA役員が調理したカレーを食べました。

食事の後、同法人副理事長の角田侃男さんから、ホタルの生態や特徴の説明を受けた後、生越清水地区の沢へ移動。子どもたちは遊水池を飛び交うホタルの淡い光を見つけ歓声を上げていました。

観察会にあたり、今楸理事長は「観察会は18年目、志村第五小との交流は5回目となりました。多くの方々のお力添えがあつて毎年この観察会で交流できるとに感謝します」と話していました。



ホタルの説明を熱心に聞く子どもたち

更生保護女性会が 社会を明るくする運動

更生保護女性会は7月2日、「社会を明るくする運動」のため根岸育江会長ほか役員5人が役場を訪れ、犯罪や非行のない安全で安心して暮らせる地域社会づくりの推進を呼びかけました。

同会では、このほか村内各小中学校や保育園、社会福祉協議会をまわり、この運動を呼びかけるとともに、手作りの和紙人形などを配りました。

また、各小中学校には、同女性会全員が手縫いで作成したぞうきんを配布しました。



役場を訪れた更生保護女性会の皆さん